

# 熊野町 地域公共交通活性化協議会

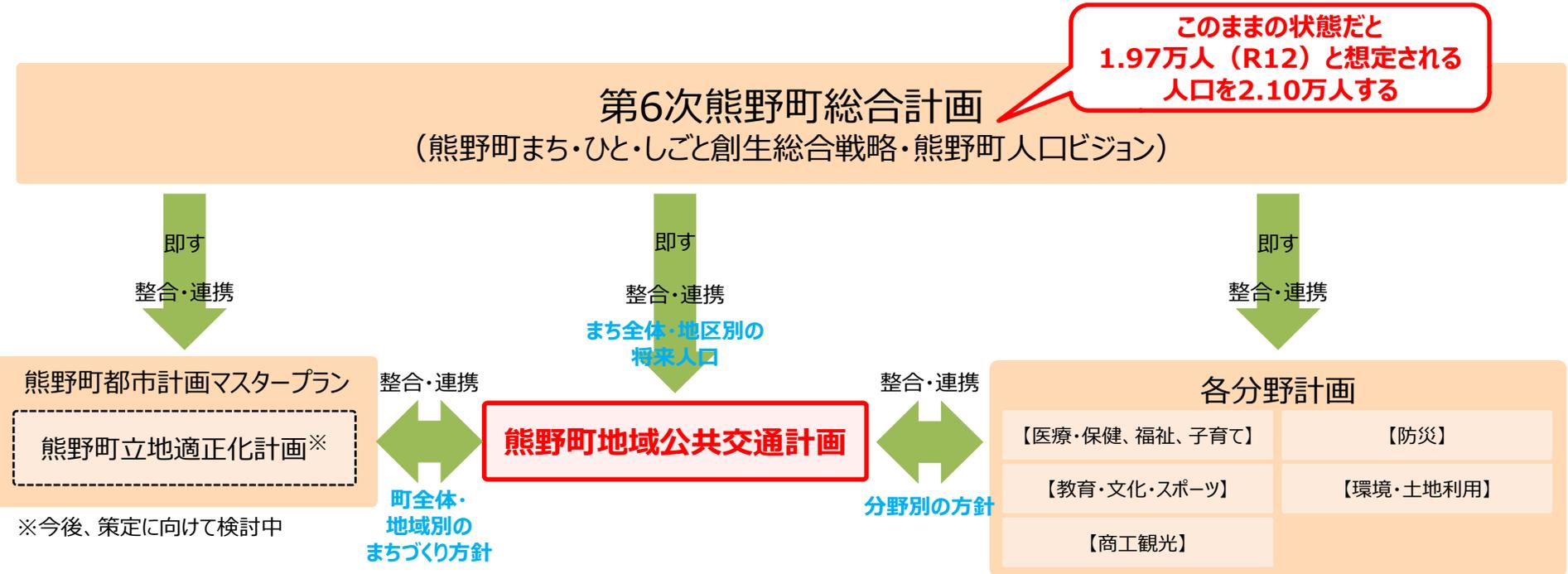
令和 4 年度  
第 4 回会議

～現況課題を踏まえた方針について～

2022.12.27

# 1. 検討の考え方

- 『ひとまち 育む 筆の都 熊野 ～なんかいい ちょうどいい そう想えるまちを目指して～』（第6期総合計画）を目指すまちの姿として、公共交通が地域活性化にどのようにすれば寄与できるかを考えます。
- 目指すまちの姿を実現するために、『都市計画マスタープラン』や『立地適正化計画（策定中）』、『各分野の計画』と連携する必要があります。つまり、各分野の計画も実現するために、**移動の側面から横断的に取り組む必要**があります。

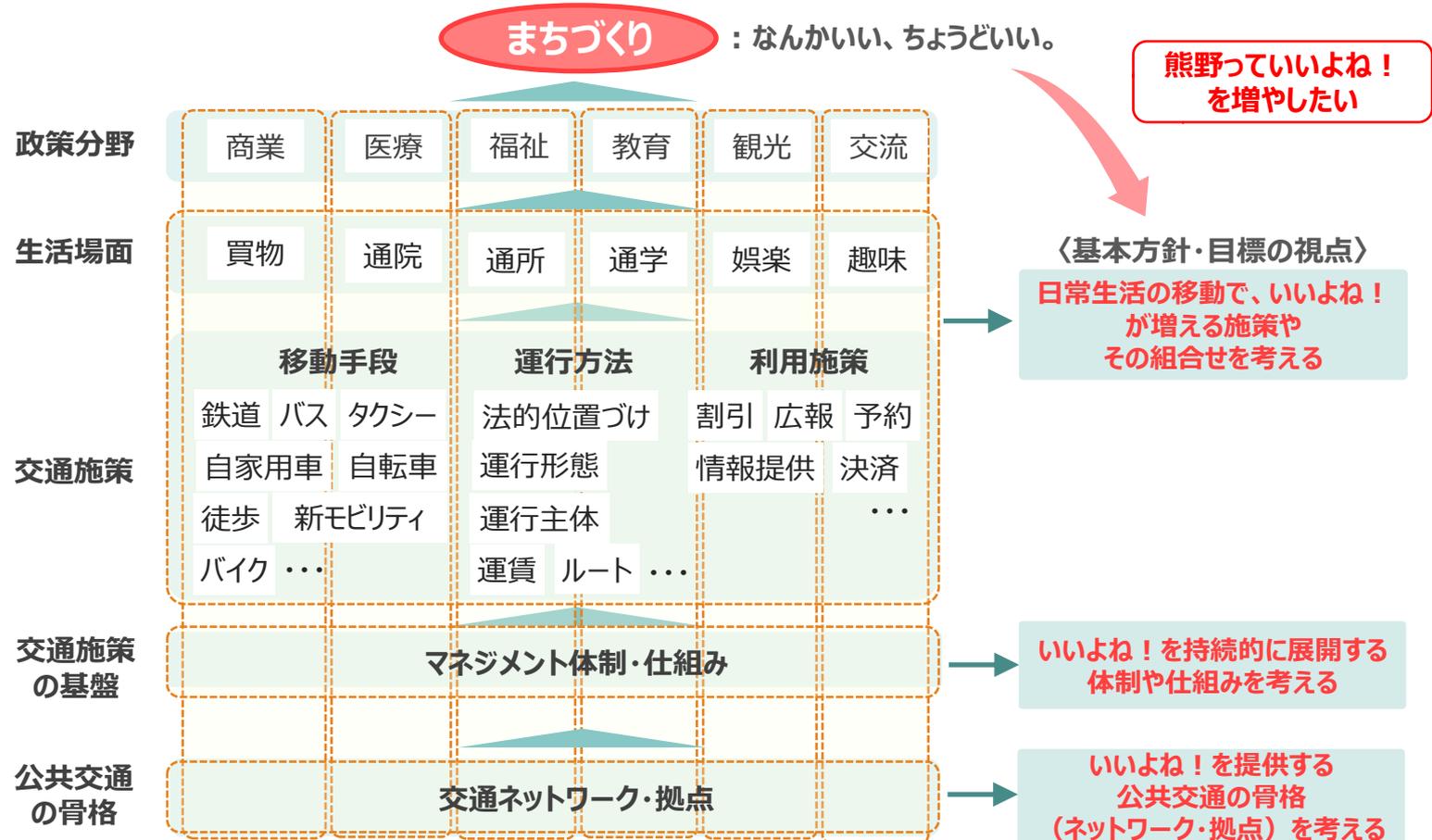


公共交通がどのように寄与していくべきか

➡ **分野横断的な視点から地域活性化に資する公共交通**

# 1. 検討の考え方

- 公共交通がまちづくりの発展に寄与するために、まちづくりの構成要素である「**普段の生活**」「**公共交通の骨格**」「**持続的に展開する仕組み**」の観点から検討します。
- このとき、生活場面に着目することで、どのような場面で、どのような人に、どのような目的で、何をするかを考えます。
- 地域公共交通共創事業では、地域活性化を大目的に買物支援や買物機会を活かした分野横断的な取組としてパイロット的に実施しています。



# 2. 現況及び課題

## 1) 日常生活における移動について

### 現況

#### ■ 通勤・通学について

- ・通勤、通学で広島市内、呉市内の多くの移動需要がある。
- ・路線バスでの通勤・通学は広電熊野営業所が拠点となっている。
- ・このため、広島市・呉市への利便性の確保を望む声が多い。
- ・また、広島市内への移動には1時間を要し、速達性・快適性の向上が望まれている。
- ・一方で、運行距離が長く非効率な運行となっている路線や隣接自治体の路線と重複している路線がある。

#### ■ 買物・通院について

- ・買物や通院は町内の施設を利用することが多い。
- ・高齢者を中心に町内での買物や通院のために路線バスやおでかけ号、タクシーを利用する機会が多い。
- ・買物や通院における移動時間がかかることを許容する一方で、施設へのアクセス性向上のニーズが多い。

#### ■ 多様なライフスタイルについて

- ・飲食や娯楽で町外にでかけることが多い。
- ・お酒を飲むときにバスを利用するニーズが高い。
- ・市外に通学する子どもを広電熊野営業所まで送り迎えしている。

#### ■ 新たな人の流れについて

- ・熊野町地域交通共創事業により目的地の施設と連携して外出機会を創出する取り組みが行われている。
- ・筆の里工房などの観光施設は車で訪れる者が多く、公共交通を使う場合は広電熊野営業所からタクシーを利用している。

### 課題

#### ■ 町外への日常的な移動の利便性・快適性の向上

- ・広島市・呉市のベッドタウンとして、多くの人が広島市・呉市方面に通勤・通学している。毎日の通勤・通学で安心して快適に公共交通を利用できるように、路線バスの充実・維持を図る必要がある。このとき、隣接自治体と連携しながら輸送効率性と利便性を確保する必要がある。

#### ■ 高齢社会に対応したきめ細かな移動環境の確保

- ・買物施設や病院、金融機関など暮らしに必要な施設は、幹線道路沿線や町外に立地している一方で、居住地は幹線道路から離れた細街路で形成されている。これらの特徴を踏まえ、既存の公共交通等を活かした小回りの利く移動手段やお出かけの際の不便さの支援により、充実した日々の暮らしをおくれる公共交通を確保する必要がある。

#### ■ 多様なライフスタイルへの対応

- ・住民の生活行動が多様化している一方で、それぞれのニーズに応えるのは難しく、家族の協力により成り立っていたり、需要そのものが抑圧されている。町外へのバスによる移動ニーズが広電熊野営業所に集約される特性を踏まえて、幅広い年齢層の多様なニーズに応えていく必要がある。

#### ■ 外出・来訪機会の創出による地域活性化

- ・筆の里工房・トモビオパークなどの観光ポテンシャルに加えて、筆の里創造の丘公苑の整備や立地適正化計画の策定（策定中）により、賑わいを創出する拠点整備が進められているほか、生活利便施設と連携した公共交通の取組が進められている。公共交通の活性化、延いては町の活性化のために、町外からの来訪者のおもてなしや、人が集まる機会や場所の創出につながる公共交通（タクシーを含む）の取組が必要である。

# 2. 現況及び課題

## 2) まちづくりの骨格となる交通ネットワーク・拠点について

### 現況

#### ■ 主要なバス路線について

- ・広電熊野営業所・熊野団地の路線バスのサービスは充実している。
- ・しかし、町の中心部から広島市・呉市方面への移動ニーズと公共交通サービスにミスマッチが生じている。
- ・また、幹線道路は交通渋滞により運行遅延が発生しておい一方、幹線道路の道路整備が進められており、沿線の土地利用は変化が見込まれる。

#### ■ 熊野阿戸線やおでかけ号について

- ・町内を循環するおでかけ号が、生活福祉交通として運行している。
- ・おでかけ号は特定ユーザーにとって不可欠な移動手段としての役割を担っている。
- ・熊野阿戸線は日中の運行を買物や通院で使いやすいよう改善を図っている。
- ・一方で、町内の交通は運行時間やルート、運賃の見直しなど、サービスの改善が望まれている。

#### ■ バス停へのアクセスについて

- ・主要バス停の周辺には駐輪場が整備されている。
- ・また、広電熊野営業所周辺にはパーク&バスライド用の民間駐車場が整備されており、パーク&バスライドのニーズが高い。

#### ■ 公共交通機関同士の乗換について

- ・JR矢野駅や広電熊野営業所は広島市・呉市方面への移動に際し重要な交通結節点となっている。
- ・しかし、萩原方面のバスは運行本数が限られており、鉄道との乗継が不便な場合がある。
- ・また、交通渋滞によりバス同士や鉄道との乗継が困難となる場面が生じている。

#### ■ 交通結節点について

- ・広電熊野営業所は町内公共交通利用のハブ拠点になっている。
- ・窓口による定期券販売・案内やバスロケーションシステムと連携したデジタルサイネージによる情報発信を行っており、待合所として機能している。
- ・一方で、交通結節点には休憩機能の充実を求めるニーズがある。

### 課題

#### ■ 主要な移動ニーズへの対応

- ・移動ニーズは西部・中央地域などを中心に町内全体に広がっている。町内を東西に横断する幹線道路を活かして、まちの移動軸として信頼性の高い幹線公共交通軸を形成する必要がある。このとき、道路整備や都市計画と連携して、幹線軸としてふさわしい交通機能と沿線環境を整備していく必要がある。

#### ■ 町内での生活利便性の向上

- ・おでかけ号や熊野阿戸線は町内での買物や通院等における移動手段としての役割を担っている。高齢化が進展する中で、生活交通としての重要性が更に高まるとともに、交通弱者のライフスタイルも多様化している。このため、買物や通院の他に、趣味・娯楽や飲食など多様な生活場面で利用な移動手段として、町内での生活に応じた改善が必要である。

#### ■ 自動車や自転車の利便性を活かしたファーストワンマイルの利便性向上

- ・広島市や呉市方面への路線バス利用に際し、バス停へのアクセス手段に自転車や自動車が使われている。ライフスタイルが多様化しており、その全てを公共交通を賄うのが困難な中で、自転車や自動車の利便性を活かして公共交通を使いやすい環境を整備していく必要がある。

#### ■ 公共交通機関同士の乗継しやすさの改善

- ・広島市や呉市方面への移動に際し、路線バスから鉄道への乗り換えや路線バスから路線バスへの乗換利用が多く見られる。これらの公共交通機関同士を有機的に繋げ、公共交通全体としての利便性を向上させるために、JR矢野駅や広電熊野営業所などの交通結節点における乗継利便性の向上が必要である。

#### ■ 交通結節点の機能充実

- ・交通結節点は、人の流れの中で重要な役割を担っている。公共交通を待っている時間を可処分時間として捉えて有効活用できるよう機能充実を図るとともに、新たな人の流れが生まれる拠点として捉えた空間づくりが必要である。

# 2. 現況及び課題

## 3) 公共交通を展開する体制・仕組みについて

### 現況

#### ■ 地域状況について

- 町の西部地域から中央地域にかけて人口が集積し、東部地域では幹線道路から離れたところに人口が分散。
- 宅地開発が進む一部の地区では高齢化率が低いが、町内全体で高齢化が進展している。
- 幹線道路沿線に生活利便施設（商業施設、医療機関、金融機関）が集積しており、近年は幹線道路沿線への施設立地により、小売業の販売額や従業者数は増加傾向にあるが、中長期的には減少傾向にある。

#### ■ 交通事業の体制について

- 交通事業者（路線バス、タクシー）による自主事業と町が運行するおでかけ号に加え、協議会による熊野阿戸線の運行が開始（R3.10）され、運行主体が多様化している。
- 熊野町地域交通共創事業により、多様な主体が関わる公共交通の取組を試行している。

#### ■ 時代の潮流について

- デジタル技術が向上し、最新技術を用いた運行システムや予約システムの普及、自動運転技術の導入、キャッシュレス決済など、公共交通に新たな技術が浸透しつつある。
- 最新技術を活用して移動サービスの最適化・移動の質の向上を図るMaaS（Mobility as a Service）の取組が全国的に進められている。

### 課題

#### ■ 魅力あるまちづくりの環境づくり

- 自動車や自転車、公共交通によりトータルで移動が便利になり、町に人が集まり、暮らし続けることが地域の活性化につながる。そのためには、交通事業者や行政のみならず、住民や生活サービス事業者も主体的に地域活性化に関わるのが重要である。このため、地域活性化の観点から人が集まる町の魅力づくりを進め、豊かな生活を送れるよう積極的におでかけすることが必要である。

#### ■ 生活・交通を取巻く事業者間の連携

- 公共交通や地域の活性化につながる取り組みを進めるためには、生活や公共交通を取巻く多様な主体の連携が不可欠である。多様な主体の連携によりシナジー効果を生むために、定期的にコミュニケーションを図り、事業者間のより良い共創環境を作り出すことが必要である。

#### ■ 最新技術等を活用したサービスの質の向上

- 近年の技術革新により、公共交通を利用する環境や提供する環境も変化している。デジタルサイネージ等による情報提供や移動サービスを最適に組み合わせる取組、移動の目的地となるサービスとも連携したシームレスな移動サービスの提供を推進するとともに、利用データ等を活用したマーケティングにより、サービスの質を向上させる必要がある。このとき、高齢者に寄り添いながらデジタル導入を進めて行く必要がある。

# 3. 基本的な方針と方向性(案)

## 1) 基本的な方針と施策の方向性 (案)

- 熊野町で生活していて、**いいよね！**が増える施策を検討します。
- このとき、施策の実現期間や都市構造の変化を踏まえて、短中長期的な視点で未来絵図を描いていきます。

課題

基本的な方針 (案)

### 日常生活の移動

- 市外への日常的な移動の利便性・快適性の向上
- 高齢社会に対応したきめ細かな移動環境の確保
- 多様なライフスタイルへの対応
- 外出・来訪機会の創出による地域活性化



**なんかいい！生活が送れる公共交通サービスの充実**

### まちづくりの骨格となる交通ネットワーク・拠点

- 主要な移動ニーズへの対応
- 町内での生活利便性の向上
- 自動車や自転車の利便性を活かしたファーストワンマイルの利便性向上
- 公共交通機関同士の乗継しやすさの改善
- 交通結節点の機能充実



**ちょうどいい！利用できる公共交通体系の構築**

### 公共交通を展開する体制・仕組み

- 生活・交通を取巻く事業者間の連携
- 公共交通により地域が活性化する仕組みづくり
- 最新技術等を活用したサービスの質の向上



**やっぱりいい！公共交通が持続する体制づくり**

# 3. 基本的な方針と方向性(案)

## 1) 基本的な方針と施策の方向性 (案)

### ① 日常生活の移動について

#### 課題

- 市外への日常的な移動の利便性・快適性の向上
- 高齢社会に対応したきめ細かな移動環境の確保
- 多様なライフスタイルへの対応
- 外出・来訪機会の創出による地域活性化

#### 基本的な方針と施策の方向性 (案)

### なんかいい！生活が送れる公共交通サービスの充実

- 毎日の通勤・通学等で広島・呉方面に通いやすく・快適に住みたい町にするために、広島市や呉市への通勤・通学が快適になる工夫でサービスを向上させる。
- 自動車がなくとも買物や通院をより便利に移動の困りごとに寄り添って、乗るまでも便利、乗っても便利、着いても便利、帰るときも便利なちょっとした工夫でサービスを向上させる。
- 親も子供もこれまでと違う新たな生活スタイルを公共交通の新しい使い方ができる「こんなのあったら便利」なサービスを提供する。
- 新たな人の流れを生み出そう熊野の地域ポテンシャルを引き出して、町民も来訪者も出かけたい、集まりたい拠点とそのため移動サービスを提供する。

# 3. 基本的な方針と方向性

## 参考) 施策の方向性と具体施策案

### 基本的な方針：なんかいい！生活が送れる公共交通サービスの充実

#### 施策の方向性

#### 具体施策案

■ 毎日の通勤・通学等で広島・呉方面に通いやすく・快適に

- ・【短・中】広島方面（東雲経由）、矢野方面、呉方面の運行本数維持
- ・【中・長】長距離路線の効率化（向洋、高速2号経由の整理）
- ・【短・中】快速バス
- ・【短・中】ハイグレードバス

■ 自動車がなくとも買物や通院をより便利に

- ・【短・中】おでかけ号の改善（ルートやダイヤ）
- ・【短・中】矢野方面、呉方面の病院へのアクセス改善（ダイヤ）
- ・【短・中】運賃体系の見直し（高齢者割引、妊婦・子育て世代割引、町内サブスクなどおでかけ号の改善と連動）
- ・【短】マイダイヤの作成（説明会等を通じて利用したいダイヤの作成）
- ・【短・中・長】お手伝いバス
- ・【短・中・長】免許返納者等への交通運賃助成や協賛施設での特典付与
- ・【短・中・長】福祉移送サービス事業、福祉車両貸出事業の継続

■ 親も子供のこれまでと違う新たな生活スタイルを

- ・【短・中】子供向けバスの乗り方教室の開催
- ・【中・長】塾や習い事などとの連携
- ・【中・長】夜間も利用可能な交通サービス（乗合タクシー）

■ 新たな人の流れを生み出そう

- ・【短・中】目的地施設との連携による外出促進策
- ・【長】地域活性化機能を有した交通結節点の機能充実・整備
- ・【中・長】観光利用×●●による観光者のおもてなしと●●

# 3. 基本的な方針と方向性(案)

## 1) 基本的な方針と施策の方向性 (案)

### ②まちづくりの骨格となる交通ネットワーク・拠点について

#### 課題

- 主要な移動ニーズへの対応
- 町内での生活利便性の向上
- 自動車や自転車の利便性を活かしたファーストワンマイルの利便性向上
- 公共交通機関同士の乗継しやすさの改善
- 交通結節点の機能充実

#### 基本的な方針と施策の方向性 (案)

### ちょうどいい！利用できる公共交通体系の構築

- 安心して使えるまちの公共交通幹線軸をつくろう  
ここに行けばバスに乗れる。そんな安心感を与えられる公共交通軸をつくる。
- ちょっとした普段の外出で便利な町内移動網をつくろう  
買い物に通院に遊びに。町内で楽しく暮らせる、おでかけしたくなる公共交通を提供する。
- ファーストワンマイルで自動車や自転車をうまく活用しよう  
自動車や自転車は便利。その便利さを活かして公共交通が使いやすい環境を整備する。
- 公共交通を乗り換えても便利にしよう  
出発地から目的地までが一つの移動。ちょっとした工夫や改善で公共交通同士をちょうどよくつなげる。
- 待ち時間も有意義で、人が集まる拠点をつくろう  
待ち時間が快適。楽しく移動してもらうための交通結節点を整備する。

# 3. 基本的な方針と方向性

## 参考) 施策の方向性と具体施策案

### 基本的な方針：ちょうどいい！利用できる公共交通体系の構築

#### 施策の方向性

#### 具体施策案

■ 安心して使えるまちの公共交通幹線軸をつくろう

- ・【短・中】道路整備（矢野安浦線）の要望
- ・【長】道路整備や沿線開発と連携した矢野～萩原の増便orルートの見直し

■ ちょっとした普段の外出で便利な町内移動網をつくろう

- ・【短・中】おでかけ号の改善（ルートやダイヤ）
- ・【短・中・長】移動目的の時間に適応した路線バスのダイヤの見直し

■ ファーストワンマイルで自動車や自転車をうまく活用しよう

- ・【短・中・長】バス停周辺の自転車駐輪場維持（熊野馬場、役場、熊野営業所、西防災センター）
- ・【中】拠点施設と連携したP & R・K&Rの整備

■ 公共交通乗り換えても便利にしよう

- ・【短・中・長】鉄道との乗り継ぎダイヤの改善
- ・【短・中・長】バス同士の乗り継ぎダイヤの改善

■ 待ち時間も有意義で、人が集まる拠点をつくろう

- ・【長】まちづくりと連携した地域活性化機能を有した交通結節点の機能充実・整備
- ・【短・中・長】交通結節点となる拠点等におけるイベント等の開催

# 3. 基本的な方針と方向性(案)

## 1) 基本的な方針と施策の方向性 (案)

### ③公共交通を展開する体制・仕組み

#### 課題

- 公共交通により地域が活性化する仕組みづくり
- 生活・交通を取巻く事業者間の連携
- 最新技術等を活用したサービスの質の向上

#### 基本的な方針と施策の方向性 (案)

### やっぱりいい！公共交通が持続する体制づくり

- 公共交通を基軸とした地域活性化のマネジメント  
地域活性化のために、多様な主体によるアジャイル的な共創・連携を推進する。
- 多様な主体の共創による熊野方式の公共交通運営  
多様な主体の共創を推進し、自立性を高めるために、地域活性化に根差したプラットフォームを構築する。
- 最新技術等を活用した横串連携体制の構築  
様々な視点を持った人同士が、同じの目標に向かって共通認識が図れるよう最新技術も活かした取組を推進する。

# 3. 基本的な方針と方向性

## 参考) 施策の方向性と具体施策案

### 基本的な方針：やっぱりいい！公共交通が持続する体制づくり

#### 施策の方向性

#### 具体施策案

- 公共交通を基軸とした地域活性化のマネジメント
- 多様な主体の共創による熊野方式の公共交通運営

- 【短・中・長】関係者間の定期的な意見交換会の開催
- 【短・中・長】地域公共交通共創事業の継続
- 【中・長】地域活性化に根差した地域公共交通共創事業に自立的に取り組む共創プラットフォームの構築
- 【長】公共交通資産の共同利用

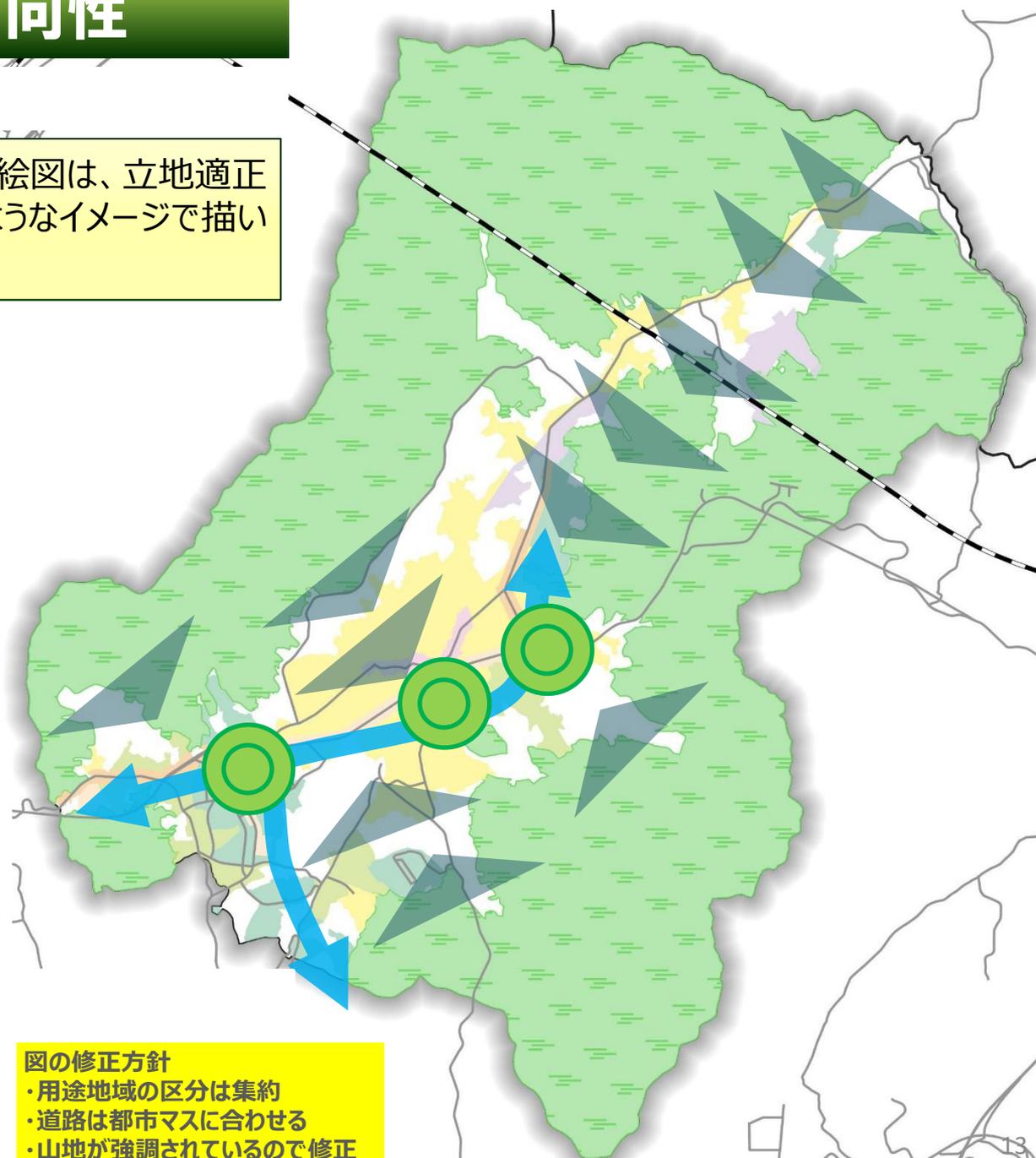
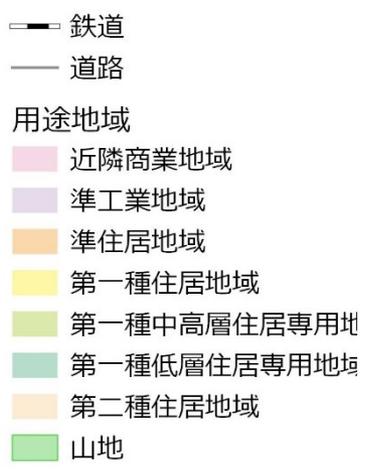
- 最新技術等を活用した横串連携体制の構築

- 【短・中・長】デジタルサイネージ等による情報発信
- 【短・中・長】交通ICカードの利用実績やビッグデータ等を活用した運行・利用状況のモニタリング

# 3. 基本的な方針と方向性

## 2) 公共交通の未来絵図

熊野町が目指す公共交通の未来絵図は、立地適正化計画との整合を図りながら図のようなイメージで描いていきます。



**図の修正方針**

- 用途地域の区分は集約
- 道路は都市マスに合わせる
- 山地が強調されているので修正